

ふるさとを愛し、感謝の心を育む別府っ子の育成

～ 家庭・学校・地域の絆を深めるPTA活動の推進をめざして ～

美祢市立別府小学校PTA

1 学校地域の概要

PTA会長 : 三原 彰子
学校長 : 南 順子
児童数 : 36名
会員数 : 39名 (家庭数30 教職員9)
所在地 : 〒754-0603
山口県美祢市秋芳町別府1918
TEL 0837-64-0047
FAX 0837-65-2447
E-mail beppu-e@c-able.ne.jp



(1) 学校地域の概要

本校は、日本最大級のカルスト台地「秋吉台」や日本屈指の大鍾乳洞「秋吉洞」で有名な美祢市秋芳町の西部に位置している。

また、1985年(昭和60年)に日本名水百選にも選定され、カルスト特有の水質で、透き通ったブルーの水が不思議なほどの美しさを見せる「別府弁天池」が校区内にある。この摂氏14度の冷水を利用した町営の「にじ鱒養殖場」は、年間10万尾のにじ鱒を出荷し、地産地消を推進している市内の学校給食にも供出されている。

カルスト台地という恵まれた土壌と気象条件が育んだ「秋芳梨」の生産も盛んで、この「秋芳梨」は地域の特産品である。本校では、平成元年から梨生産農家の永嶺克博様(現秋芳梨生産協同組合長)の梨園の木をお借りし、花粉とりから花粉付け、摘果・大小の袋かけ・敷き藁・収穫・土作りといった作業を実際に体験する中で梨栽培の知識を深めながら「秋芳梨」

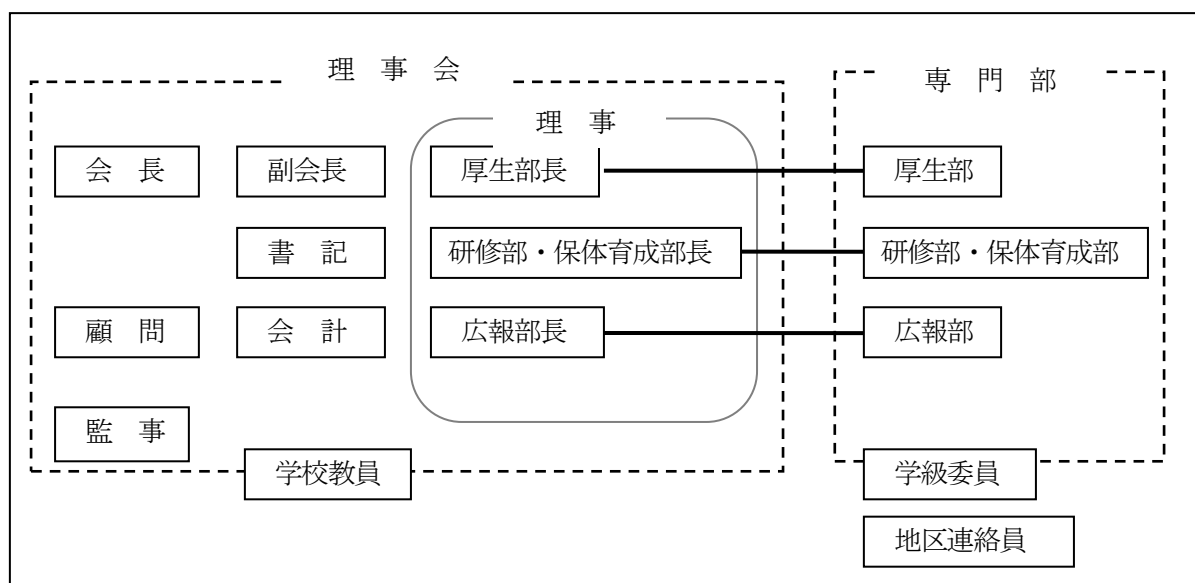
生産農家の苦労や喜びを実感する「^{りかそんじゅく}梨下村塾」を開設している。この塾は平成元年から24年間も続いており、本校ならではの地域と連携した特色ある活動で、児童は、この「梨下村塾」で勤労の尊さや生産の喜びを体験しながら、ふるさと別府を愛する心を育んでいく。

また、毎年秋に壬生神社に奉納する「別府岩戸神楽舞」は、昭和61年に「山口県無形民俗文化財」に指定されており、現在では、少子化により継承する若者がいなくなったことから断絶を避けるために、本校児童が総合的な学習の時間などを利用して、地域の方から直接指導を受け、伝統を引き継いでいる。

平成23年度には、地域のまとめ役として子どもの見守り活動に取り組んでいる「別府親愛会」が、文部科学省の学校安全ボランティア活動奨励賞を受賞した。この「別府親愛会」は、PTAや地元の健寿会・婦人会など11団体で組織されており、平成21年に発足した。学校と各団体との連絡調整等に当たり、地域をあげて、登下校の見守りや安全パトロール、学校と隣接する保育園と合同で実施する不審者避難訓練への参加、学習の森の管理などに尽力している。

このように、豊かな自然に恵まれた本地域の保護者や地域の人々は人情味豊かで、学校教育に対しても大変協力的であり、まさに、別府小学校は地域に支えられた学校といえる。

2 PTAの組織図



【各部会等の活動内容】

厚生部

- ・PTA美化作業の運営
- ・リサイクル品回収の運営
- ・盆踊り大会バザーの実施



(救急法講習会)



(PTA球技大会)

研修部・保体育成部

- ・研修視察の運営
- ・PTA講演会の運営
- ・救急法講習会・PTA球技大会の運営
- ・学校保健安全委員会の運営
- ・交通当番表の作成
- ・プール当番表の作成



(秋季大運動会)

広報部

- ・学校広報誌「さくらの丘」の発行
- ・運動会写真撮影・整理・販売の実施

学級委員

- ・学級PTA活動の実施
- ・学級懇談会の運営



(給食試食会)

地区委員

- ・リサイクル品回収の協力
- ・各地区への文書配布

3 研究主題について

ふるさとを愛し、感謝の心を育む別府っ子の育成

～家庭・学校・地域の絆を深めるPTA活動の推進をめざして～

少子高齢化、情報化などが進展する中で、近年子どもたちを取り巻く教育環境は大きく変化してきた。別府地区においても過疎化・高齢化・少子化が急速に進み、児童数の減少は著しい。平成20年度の全校児童は61名だったが、平成24年度には36名と、わずか4年間に児童数が25名も減少している。

児童数の減少に伴って、保護者の数も減少してきた。特に、平成24年度から平成25年度にかけては、これまで30台を保有していた家庭数が20台へと大きく減少し、今後もさらに減少し続ける傾向にある。本校は校地が広く、草刈り等の環境美化作業が年間3回あり、運動会やふれあい集会（どんど焼き・餅つき）等地域との共催による行事も多いが、保護者は、それらの行事に大変協力的で、中には夫婦で参加をされる方もいる。しかし、会員数の大幅な減少は、これまでと同じような体制で同じような活動を行おうとすると、一人一人の保護者への負担を大きくすることにつながってくる。組織や活動の見直しももちろん必要であるが、別府地区ならではの地域の教育力を最大限に活用し、「家庭・学校・地域との新たな連携」という視点にたったPTA活動を考える時期にきているのではないかと思われる。

そこで、平成24年度、別府小学校PTAでは、別府地区ならではの教育資源の活用や地域の素晴らしい人材・組織等の御協力をいただき、学校・家庭・地域が連携をして、それぞれの力を結集することで、別府小学校の子どもたちに「ふるさと別府を愛する心」や「感謝の心」を育むことにした。幸い「別府地区」は、子どもたちを「地域の宝」として育む風土がしっかりと根付いている。このような地域の教育力、教育的風土を最大限に生かし、家庭・学校・地域が連携することにより、子どもたちのためにさらに充実したPTA活動が推進できると考えたのである。

また、本校のPTA活動は「親子（学校では教師と子ども）で共に活動する」ことを基本とし、「親子（教師と子ども）でよりよく成長する」ことを目標にしている。今、学校では「読書の花を咲かせよう」をチャレンジ目標にして、子どもたちへ読書を呼びかけている。そのため、毎週金曜日の朝、全校児童と全教職員が図書室に集まり、15分間一緒に読書をしている。大人の姿勢や環境作りが子どもたちの読書習慣を形成する上で重要だと考えたからである。平成22年度から実施しているが、今では全児童が静かに図書室に集まり、集中して読書ができるようになってきた。そこで、平成23年度から家庭での親子読書と呼びかけることにした。家庭で、親が本を読む姿を見せること、読み聴かせや、同じ本を読んで感想を語り合う等、本を核にして親子でしっかりふれあうことが大切だと考えたのである。

講演会も親子で一緒に聴き、親子で感動を共有し、共に成長していくことをねらいとしている。子どもたちが健やかに成長するためには、親自身が親として成長していくことが何よりも大切だからである。そのために、親子で感動を共有できる講師の選定が大変重要になってくる。今年度の講師「腰塚勇人先生」は、まさに最もふさわしい講師であった。

4 活動内容

(1) 親子で共に豊かな心と感謝の気持ちを育む「教育講演会」の開催

今の幸せに気づくことから夢は広がる

～ 腰塚勇人先生の「命の授業」を通して ～

① 期 日 平成24年10月 5日 (金) 14:00 ～ 16:00

② 会 場 美祢市立別府小学校 2階多目的ホール

③ 参加者 別府小学校 児童・保護者・教職員
嘉万小学校 児童・保護者・教職員
秋吉小学校 児童・保護者・教職員
本郷小学校 児童・保護者・教職員
下郷小学校 児童・保護者・教職員
秋芳地区在住の方、 美祢市教育委員会



腰塚先生のプロフィールから

中学校でバスケットボール部の顧問として、生徒の教育や指導に一生懸命打ち込む「熱血教師」だった私に、ある日、人生を大きく変える出来事が起こりました。

2002年、スキー中に大転倒、頸椎（首の骨）骨折という大怪我をしてしまったのです。

4時間の手術の末、奇跡的に命はとりとめたものの全身が動かない深刻なマヒ状態になり、あまりの絶望に、私の心は深く沈みました。

そんな私を救ってくれたのは、妻や両親、同僚の先生や生徒、病院のお医者さんや看護師さん、そして周りの人たちでした。そうした人達の応援と励ましを受けて、私の心も再び動き始めました。入院生活やリハビリでは、様々な紆余曲折を経ながらも自分の命があらゆるものに「助けられ、生かされている」ことに気づきました。

その気づきをきっかけとして、奇跡的に回復に向かい、4ヶ月の入院・リハビリの後、職場復帰を果たしました。この間、私の見方・考え方・感じ方は大きく変わりました。そして、人生も一変しました。

復帰後は、自らも身体の一部に障害を抱えながら、感謝と共に生きるようになりました。

入院・手術・リハビリ・職場復帰と一つ一つのプロセスを経ながら、自分を受け止め、受け入れ「五つの誓い」へたどり着きました。

現在は教員を卒業し、命の大切さ・生きていることの素晴らしさ・両親・家族・仲間の大切さ等、普段の生活の中で当たり前と感じ、忘れかけている大切な幸せについて、また、皆様が誰かを照らす存在であることを講演や著書を通じて、お伝えしていきたいと願っています。

④ 講演会の様子



当日は、秋芳地区の各小学校から総勢 220 人近い児童・教職員・保護者が腰塚勇人先生の講演を聴くために、本校の多目的ホールに集まった。

腰塚先生の御講演の抜粋

スキーマの事故で首の骨を折り、一瞬にして首から下が全く動かない状態になってしまい、絶望から一度は自ら命を絶つことを考えました。そんな僕に勇気をくれたたくさんの人がいました。「何があってもずっと一緒にいるから・・・」という奥さんの言葉。「代わるものなら代わってあげたい・・・」というお母さんの言葉。「先生、待っているから・・・」という仲間と生徒たちの言葉。「助けて・・・」って言えば、本当にみんなが助けてくれることを知りました。今の全てを受け入れて、いつも「笑顔」でいると決めました。どんなことにも「ありがとう」を言おうと決めました。そうしたら・・・全く動かなかった手足が・・・だんだん動き始めてくれたのです。そして、「必ず、先生として学校へ戻る」と決めました。立ち上がれ、歩ける喜び　しゃべれる喜び「当たり前」だと思っていたことに「幸せ」と「感謝」を見つけました・・・。

怪我から4ヶ月後、奇跡が起きました・・・。(略)

命の大切さ、生きていくこと（生かされていること）の素晴らしさ、両親・家族・仲間のかけがえのなさ、東日本大震災で亡くなった子どもたちや多くの人々への思い・・・等を全身全霊で語ってくださった腰塚先生のお話は、一人一人の子どもたちの魂まで届いたように思う。1時間半近くに及ぶ講演に、子どもたちは真剣に聴き入っていた。

特に印象的だったのは、「命が喜ぶ【五つの誓い】」を教えていただいたことである。
～人の命には限りがある。「時間は今」である。後悔をしない生き方をするためにも自分の命と人の命が喜ぶ生き方をしよう～

五つの誓い

- ★「口」は、人を励ます言葉や感謝の言葉を言うために使おう。
- ★「耳」は、人の言葉を最後まで聴いてあげるために使おう。
- ★「目」は、人のよいところを見るために使おう。
- ★「手足」は、人を助けるために使おう。
- ★「心」は、人の痛みが分かるために使おう。

ドリームメーカーになろう

言葉を大切にしながら、言葉のエネルギーを信じ、素敵な言葉を使えるドリームメーカーになることの大切さを教えていただいた。

実際に、「0リングワーク」をみせていただき、言葉のエネルギーのすごさを目の当たりにすることができた。

「その人が本気で一生懸命になっている姿があれば、夢は必ず叶うもの。」「自分と大切な人のドリームメーカーとして、今をともに生きましょう。」「目の前の大人が夢を叶えている姿を見ることができる、感じることができる、伝えてもらえる子どもたちは幸せです・・・。」

どれもずっしりと心に響く言葉だった。



児童の感想から



それと「ありがとう」を、かぞくにつたえたいです。（1年生）

●きょうの5じかんめにいのちのべんきょうをしました。こしちゃんがせつめいしているところがかっこよかったです。

こしちゃんは、「かぞくをたいせつにしよう。いのちをすてたらいけない。」と、いってくれました。

だから、わたしはいのちをまもりたいです。

●きょう、ほんとうにいのちがたいせつってということがわかりました。つなみとかじしんとかこわいじこで、たくさんひとがなくなっていました。いのちは、ひとつだけしかないから、だいじってというのがわかりました。（1年生）

●きょう、こしちゃんのおはなしをきいてかんどうしました。こしちゃんは、みんなのささえやはげましがあってきつりハビリをがんばったから、いまがあるのだとおもいました。わたしも、なにごとにもがんばろうとおもいました。（1年生）

●こしちゃんは、スキーにいつておおけがをしたけれど、なおってよかったなあ。てをまるくしたとき、みんなが「がんばれー。」といったから、すごいちからができました。すごかったですね。（1年生）



●この前の講演会には、はるばる神奈川県厚木からお越しくださって、ありがとうございます。腰塚先生とお友達になれてうれしかったです。腰ちゃんのお話に、私は感動しました。お話の途中で、何回も泣きたくなりました。特に、お母さんやお父さんのお話で泣きました。あと、腰ちゃんの入院中のお話は、私のお父さんもそういう気持ちだったのかなと考えたら、もっといろいろ話せばよかったと思いました。

スキーのお話は、私もスキーをしたことがあったので、こけた時の様子を聞いた時はこわくなりました。でも、腰ちゃんはけがが治ってから、もう一度スキーをしたので、すごいと思いました。私ならたぶんこわくてできないと思ったからです。

他に「オーリングワーク」で、言葉の力って本当にすごいんだなと思いました。それを知ることができたので、運動会や体育祭で一生懸命応援をしました。今回のお話で、人生を悔いなく生きようと思いました。ありがとうございました。(5年生)

保護者・教職員の感想から

●素晴らしいお話に感動しました。大変なご体験をされたのに、全てのことを受け入れ全てのことに感謝し続ける・・・また、どんなことがあってもあきらめない・・・そんな先生の心の強さ、温かさがお話を通して、ひしひしと伝わってきました。先生のお話が聞けて、本当によかったです。わたしも勇気をいただいたようです。

また、出会った人全てを大切に思い、大事にされているお姿も見習いたいです。子ども達と一緒に講演が聴けたことも、とてもよかったです。また、親子で話をしたいと思います。このような親子の講演会を開催していただき、ありがとうございました。

●講演を聴きながら、胸がいっぱいになって、涙があふれてきました。「助けて」って言うてもいいのだということ。自分の周りには、助けてくれるたくさんの人がいるのだということ。自分は一人で生きているのではないということ・・・当たり前なことなのに、今まで気づかなかったたくさん「幸せ」に気づかせていただきました。

大変なご体験をされた腰塚先生のお言葉だからこそ、心に強く響きました。

涙が止まったあと、見える世界が違ってきました。なんだか、先生のお陰で心の目が清く澄んできたようです。

この心の目で、「目は、人のよいところを見るために使おう」「口は、人を励ます言葉や感謝の言葉を言うために使おう。」「耳は、人の言葉を最後まで聴いてあげるために使おう。」「手足は、人を助けるために使おう」「心は、人の痛みが分かるために使おう」の「五つの誓い」をしっかりと実践していくつもりです。本当にありがとうございました。

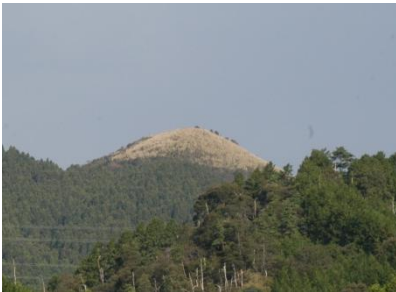
●腰塚勇人先生にお会いし、素晴らしい御講演を拝聴することができ、最高の一日でした。本当にありがとうございました。心から感謝申し上げます。渾身の力を振り絞って全身全霊で語りかけてくださった先生のお言葉に、参加者は感動し、勇気と元気をいただいて、とってもいい笑顔になることができました。想像を絶するご体験をされた先生のお言葉は、私たち人間誰もが無意識の中でもっている「人としてよりよく生きたい」と願う生命の原点に響き、生きるエネルギーを与えてくださったように思います。先生のお話を聞くことができ、本当によかったです。ありがとうございました。

(2) ふるさとを誇りに思い、学校・家庭・地域の絆を深める「花尾山登山」の実施

ふるさと別府を愛する心を育む「花尾山登山」

- ① 期 日 平成24年10月14日(日) 8:15 ~ 14:00
- ② 目的地 花尾山(標高669.1m)
- ③ 参加者 児童・保護者・「花尾山の自然を守る会」の会員・地域の方・教職員
- ④ 日 程
- | | |
|-------|--------------------------|
| 7:30 | 先発隊:別府小学校出発(トイレのシート張り) |
| 7:45 | 児童・保護者:学校集合 |
| 8:00 | 学校出発(河原上分岐点へマイクロバスや車で移動) |
| 8:15 | 出発式(河原上分岐点・・・登山口まで2.2km) |
| 9:00 | 「花尾山」登山口到着 |
| 11:30 | 「花尾山」山頂到着・・・弁当、飴まき、記念写真 |
| 12:30 | 「花尾山」山頂出発 |
| 14:00 | 解散式(「花尾山」登山口) |

花尾山について



花尾山は、別名「長門富士」とも呼ばれ、裾野の秀麗な姿は、山口百名山の一山として広く知れわたり、県内外からも愛好家が登山に訪れている地域の誇りの山である。

本校の校歌の一番は、「桜の丘のぼくたちは、花尾の山の子どもです」で始まり、「真澄の空の山なみに希望の雲を仰ぎ見る・・・」と、花尾山の山頂から四方を見渡した素晴らしい眺望が歌われている。

ぜひ、毎年この花尾山に登り、児童に登りきった後の達成感や感動を味あわせたいと考えているが、登山にあたっては、長くて急な斜面を登るため、ロープ等の設置や登山道の整備が欠かせない。また、トイレの設置も2箇所ほど必要である。そのため、今までは保護者や地域の方の協力を得ながら、子どもたちが小学校の6年間に一度は登山が体験できるよう、6年に一度ずつ実施されてきた。今回は、今の6年生が1年生だった平成19年度に実施された。

近年、別府地区の有志の方による「花尾山の自然を守る会(会長:山田素行様)」が結成され、定期的に雑木の伐採や登山道の整備、案内標識等の設置をしてくださるお陰で、花尾山の環境がみちがえるほど整備されてきた。地域からも「ぜひ、子どもたちに花尾山登山を体験させてはどうか」という声が上がってきた。

⑤ 当日までの取り組み

- 平成24年4月のPTA総会にて、保護者に今年度花尾山登山実施の承認を得た。
- 4月11日に、「花尾山の自然を守る会」の会長山田素行様、書記会計の田村俊之様と校長の三者で第1回話し合いを実施。
- 4月24日に「花尾山の自然を守る会」の会長山田様と会員の方数名、PTA会長、副会長、校長で登山を実施。花尾山の状況把握と登山に向けての実施計画を立案。
- 5月の日曜参観日に、PTA会長と校長が保護者に4月24日に登山をした際の花尾山の状況報告をし、10月14日に花尾山登山を実施することを連絡。
- 夏季休業中に、「花尾山の自然を守る会」の会長山田様や会員の方4名、PTA会長・副会長・顧問・専門部長、6年前の登山の経験があるPTAのOBの方、学校から校長・教頭・教務・体育主任が参加し、事前の準備の確認や役割分担等打ち合わせを実施。
- 10月6日、PTAのOB1名、6年生の保護者4名、教頭で仮設トイレの設置のため、事前に花尾山に登頂。

⑥ 当日の登山について

「花尾山の自然を守る会」の皆様が、登山道の整備やチェーンソーを使った木の伐採、草刈り、補助ロープの設置、危険箇所の点検・整備等、10月の登山に向けて猛暑の中、大変な作業を着々と進めてくださったお陰で、事前の準備がしっかりできた。

当日も、早朝から児童・保護者・教職員が安全に登頂できるようにと、先発隊と併走隊・記録班に分かれて、スズメバチ対策や登山道の安全確保、登山に際しての具体的注意事項の指導や花尾山の動植物等についても分かりやすく説明をしてくださった。

登山者全員が事故や怪我もなく、無事に下山することができたのは、こうした「花尾山の自然を守る会」の皆様のきめ細やかな配慮があったからに他ならない。また、保護者の積極的な協力のお陰で連帯感も生まれ、親子はもちろんのこと、参加者全員で登頂の達成感を味わうことができたのは、何よりであった。

保護者の感想から

○花尾山登山、子どもの組に同行しました。6年生に助けてもらい、5年生や3年生のお姉さんやお兄さんにも大変助けていただき、子どもは幸せです。(低学年の保護者)

○皆やさしい子どもたちばかりです。親が手を引くのではなく、上級生がリュックを下から持ち上げたり、上から引っ張ったり……。親としてはそのかわりを見て、親の手より、子ども同士の友情の手の方を優先すべき、団体行動の素晴らしさを目の当たりにした感じです。(低学年の保護者)





5 成果と課題

今年度、別府小学校PTAは「ふるさとを愛し、感謝の心を育む別府っ子の育成」をめざし、家庭・学校・地域の絆を深めるPTA活動に取り組んできた。

児童の豊かな心と健やかな体を育むためには、地域の教育力、教育的風土を最大限に活用し家庭・学校・地域が連携をして絆を深めることが、大切であると考えたからである。

また、「親子で共に活動し、共によりよく成長する」ためには、学校と家庭が様々な情報を共有し、魅力あるPTA活動を創り出すことが必要になってくる。

会員の資質向上をめざす講演会は、学校によってはほとんど保護者の参加が少なく、せっかくの研修の機会が有効に活用できていない話を聞くことがある。しかし、本校の保護者は講演会への参加が多く、感想を見ても前向きな意見がほとんどである。ならばこそ、さらに、PTA会員の期待に応えられるよう、魅力ある講師の選定が重要になってくる。

本年度、別府小学校PTAは研究指定校にいただいたお陰で、全国的に有名なすばらしい講師を教育講演会に招聘することができた。

腰塚勇人先生による「命の授業～今の幸せに気づくことから夢は広がる～」は、親子で聴くにふさわしい素晴らしい内容であった。大人にも子どもにも「今をどう生きていくことが必要なのか。命の喜ぶ生き方とは・・・」等々、一つ一つの言葉に真心を込めて、真剣に語ってくださった。親に対しては「子どもが本当に辛い時に守ってやるのが親である。」子どもに対しては「誕生日は、親に対して『産んでくれてありがとう。育ててくれてありがとう。』と感謝をする日である。」等、感謝を伝えることの大切さ等も教えてくださった。

そして、最後に子どもたちへ「**両親を信じてほしい。学校の先生を信じてほしい。社会の大人を信じてほしい。友達を信じてほしい。**」と、人間としてよりよく生きていくために最も大切なメッセージをいただいた。それは、まさに講演会に参加した私たち大人に向けて、「子どもを信頼し、子どもから信頼される大人になれていますか」という問いかけをされたことに他ならない。

「感動とは、**感じたら動くこと**」この腰塚先生のお言葉を胸に、今後も子どもたちのためにより充実したPTA活動をめざし、「**感じたら動く**」を別府小PTAの合言葉にして、がんばっていきたいと思う。

